

第296回 日本体育大学長距離競技会

【出場結果】

実施日 : 6月4日(土) 1500m 6月5日(日) 5000m

会場 : 日本体育大学健志台陸上競技場

出場者 : 小林 航央 関口 大樹 田中 龍誠 坪井 響己

出場種目・出場者・リザルト

氏名	関口	田中	小林	田中	坪井
種目	1500m	1500m	1500m	5000m	5000m
組	7組目	7組目	9組目	15組目	17組目
タイム	4'07"03	4'10"63	3'45"86	14'36"83	14'39"76
順位	21/23	22/23	5/16	18/27	33/38

【レポート】

春のトラックシーズンも終盤に差し掛かりましたが、日本体育大学長距離記録会に4名の選手が出場しました。

初日の1500m7組目に出場した関口と田中は普段は5000m、10000mをメインに取り組んでいますが、スピード強化の一環で4分切りを目標として1500mに出場しました。

レースは田中がスタート直後100m付近で前方の選手と接触し、転倒してしまうアクシデントがあり、集団から大きく遅れる形となりました。

先頭集団でレースを進めていた関口も中盤以降は集団から離れだすと、ペースを大きく落とし、関口が4分7秒台、田中が4分10秒台でのゴールとなりました。

2名とも目標には届かず悔しい結果でしたが、次戦での巻き返しに期待したいと思います。



先頭集団のスピードについていけず我慢の走りとなる関口と田中

1500mの最終9組目に出場した小林は、次週に日本陸上競技選手権大会を控えており、調整を兼ねたレースとなりました。

5月上旬に体調を崩し、以降レースから遠ざかっていた関係で、実戦感覚や勝負勘を取り戻すために、序盤から外人選手をマークして積極的についていきました。

1000mを2分29秒台で通過し、その後に外国人選手がペースアップすると、少し距離が空きましたが、力強い走りは変わらず全体の5位3分45秒台でのゴールとなりました。



日本選手権の本番を想定してハイペースに食らいつく小林

本番となる日本選手権では決勝進出を目標としており、予選を通過するためには組の5位以内に入る必要があります。現状の力ではギリギリのラインではありますが、勝負強さに定評のある小林ならば、きっと結果を出してくれると思いますので、ご期待ください。



最後まで外国人選手に勝負を挑んだ小林

ShinDengen /

翌日は 5000m のレースが開催され、田中と坪井の 2 名が出場しました。

15 組に出場した田中は前日の 1500m のレースで転倒したため、その影響が心配されましたが、元気な姿でスタートラインに立つことが出来ました。



1500m のリベンジを誓いスタートに立つ田中

前日は不完全燃焼のレースとなってしまいましたが、序盤は先頭集団の後方でレースを進め、中盤以降は先頭集団から離れたものの、自身のペースを貫き、前から落ちてくる選手を次々と抜き去って 14 分 36 秒台でのゴールとなりました。

自己記録は更新できませんでしたが、今年は走り安定感が感じられるようになり、秋の駅伝シーズンを見据えて収穫のあるレースとなりました。



最後までリズム感のあるピッチを刻む田中

17 組目に出場した坪井は、自己記録である 14 分 5 秒を更新し、念願とする 13 分台のベスト記録を狙うべくレースに臨みました。



13 分台を目指しハイペースを刻む先頭集団でレースを進める坪井

先頭集団は 2 分 50 秒 / km を切るペースで推移し、13 分台を狙うには絶好のペースで進みました。しかし、先頭集団が 3000m を 8 分 25 秒で通過すると、ここで坪井の身体が固まり始め、ペースが落ちたままリズムを取り戻すことができず 14 分 39 秒台でのゴールとなりました。

13 分台を目標とする坪井には悔しい結果となりましたが、今後目標を達成するためには 2 分 50 秒 / km を切るペースを刻むことが求められますので、日々の練習で力を蓄えて自身の目標をクリアして欲しいと思います。



終盤は苦しい走りとなったが、最後まで必死にゴールを目指す坪井

今後とも皆様の温かいご声援をお願い致します。